

ユニバーサル農業実践ガイド

～ 障害者が取り組む農作業の解説 ～



平成26年3月

栃木県農政部

当実践ガイドについて

当ガイドは、県内の障害者施設で現在取り組まれている事例を基に障害者等が実施する農作業の手順や注意点などをまとめたものです。

これから、障害者の就労訓練や仕事として農作業に取り組もうと考えている福祉施設やNPOなどが、ユニバーサル農業に取り組むにあたり、どのような作業があるのか、また、障害者が実施可能なのかを判断する際の材料としていただくとともに、農業関係者が取り組みを理解する際の参考としてください。

目次

➤ 水田畦の草刈作業	4ページ
➤ ほうれんそう収穫作業	6ページ
➤ いちご収穫作業	8ページ
➤ なしの枝拾い作業	10ページ

ガイドの見方

当ガイドは事例であり、記載の作業内容が地域性や販売方法等により異なることを了承ください。

なお、福祉施設等がより安定した生産と工賃を確保するためには、職員の栽培技術・知識の習得や農機具の準備、生産した農産物の販路を確保しておく必要がありますので、当ガイドのほか様々な農業に関する情報を収集し、取組の計画を立ててください。

作業名と事例における実施概況
一般的な作業の時期、今回取材した時の作業人数、作業時間、作業量、使用した用具等を示しています。

作業のポイント
作業しやすさの工夫、作業時の注意点、作業時に使用する用具等について解説しています。

いちご収穫作業

作業時期：12月～5月
取組人数：収穫 利用者5名、指導員2名
出稼調整 利用者5名、指導員3名
所要時間：収穫時 2時間 出荷調整時 2時間
作業量：収穫約30ケース/日
使用した道具等：収穫籠(積み取っいちご用)、手つき籠(結実摘み取り用)、いちごのヘタとり器



いちご収穫作業の流れ



当日朝収穫するいちごの熟度が指示されます。本日は赤い部分が「8割」のいちごを収穫します。(土日は収穫しないため、産期日はやや早めに収穫します)

収穫作業後、いちごのバック詰めを行います。傷みのあるいちごなどを除き、大きさを選びながらバック詰めを行っています。(バック内のいちごの大きさを揃えます)

バック内にゴミなど混入していないか確認し、ラップを張り出荷用ボール箱に詰めます。箱詰めしたら保冷庫で冷やします。

乗用するトラックが来たら、保冷庫からいちごを取り出し、市場やホテルに出荷します。

手の空いた時間に結れた葉を戻すだけ取り除きます。収穫の他の農機具管理作業も同時行っています。

作業のポイント

◆いちご収穫のポイント
いちごの収穫は、色で鮮度を判断しつぶさないように摘み取ります。いちごのへた側に指を添えて(ひとさし指と中指で葉を挟みます)、手前に引きつつ軽く(半指のスパナをきかせ摘み取ります。上手いけど「パチン」と音が鳴ることがあります。この時に、強く握ってしまうと、いちごを傷つけてしまい、手が出る場合があります。「いちごの汁が手につかない!」パチンと音が出る)など具体的な技術指導の目安を示すことで習得しやすくなります。

◆判断力を養う①
収穫したいいちごを傷みや病気にした果実を除きながらバックにつめていきます。選別のミスは「良いもの」と「ダメなもの」の両方を混ざらせない「何がダメか理解」させます。
詰め方は同じ程度の大きさのいちごを並べていきますが、お客様のことを考えて、「おいしそう」を買ってもらえるようにいちごの並べ方を利用者自身が考えながら詰めていきます。判断力を習得させるため細かな指示はありません。バックに並べたあとに助言するか先駆利用者がアドバイスします。
習得まで時間がかかりますが、判断力をつけることで徐々に選別、バック詰め作業が手早くできるようになります。

◆判断力を養う②
毎日、お客様の注文数により、やるべき仕事の量・やるべき事(今日のノルマ)を明確にして、その日の作業がその日中に達成できるように「今日は〇〇バック注文」「〇時までに終わらせよう」と職員が声に出して確認を促します。しかし、作業中は自分たちで作業の進み具合を判断できるよう、職員は、作業の最終確認のみとしています。

◆作業を容易にする道具
毎日、お客様の注文数により、やるべき仕事の量・やるべき事(今日のノルマ)を明確にして、その日の作業がその日中に達成できるように「今日は〇〇バック注文」「〇時までに終わらせよう」と職員が声に出して確認を促します。しかし、作業中は自分たちで作業の進み具合を判断できるよう、職員は、作業の最終確認のみとしています。

職員の注意点・工夫

職員は、今日行うべきことは何となく覚えて、「何時までに〇〇を終らせよう」と声をかけて、判断材料(情報)を提供するなど細かな指示をせず見守り、利用者が仕事のスピードを自分で判断するといった判断力を育てています。
やらなければならないプレッシャーと達成した充足感を感じさせたり、自分たちの育てたいちごを購入している店舗で宴会をし自分が行っている仕事の結果を理解するようにしたりして、仕事への意欲を高めています。
「作業中の私語禁止(仕事のための会話はできる。)」今日の作業量の確認「報告の徹底」を行い、事務所全体で「職場」の意識付けをしています。また利用者同士は、作業の早い人・ゆっくりな人に作業する人等、それぞれの個性を受け入れ、チームで一つの「仕事」を完成させるという意識を持たせるため、できるだけ利用者だけで作業を行うようにしています。

取材協力：社会福祉法人 天成会 すまいるわくわく いちご(16a、ゼニールハウス7棟) 取材日：1月31日	社会福祉法人天成会は、平成19年に障害者自立支援事業「すまいるわくわく」を展開しました。施設内にある農場で、いちご、トマト、しいたけ等の栽培をしています。特にいちご栽培は積極的に取組んでおり、生産されたいちごは地元市場の他、さいたま市内のホテルなどに出荷し、好評を得ています。
--	--

作業の流れ
作業手順、作業の様子について解説しています。

職員の注意点・工夫等
作業が効率よく流れるよう、また毎日の仕事の質を高めるため職員が注意している点や工夫、心がけ等を解説しています。

水田畦の草刈り作業

作業時期 : 6月 ~ 8月

取組人数 利用者 9名、指導員 1名

所要時間 : 1時間 45分

作業量 水田 (約 10a及び 5aの 2筆)の畦及び水路 道路の法面

使用した道具等 : 草刈り機 (刈払い機) 2台、プロアー (送風機) 1台、熊手、竹ぼうき



水田畦の草刈り作業の流れ

9:30 施設内で、本日の血圧・体温を測り体調をチェックします。

作業場所や作業内容の説明を聞いた後、職員とともに必要な道具を車に載せます。

車に乗り込み職員の運転で、作業現場まで移動します。

(利用者 8 名、職員 1 名)



作業現場に到着し、道具を車から出します (草刈り機、竹ぼうき、熊手、プロアー)。

作業前に水分 (麦茶) を取るよう指示があります。



10:00 作業にとりかかります。草刈り機 2 台を動かす前に、職員から、草刈り機に他の利用者が近づかないよう指示が出ます。



畦の中央に草を集める他、道路に散らばった草を竹ぼうきやプロアーで畦に寄せます。



軍手をして、熊手や竹ぼうきではかき集めにくい場所の草を集めます。



草刈り機の使い方と安全確認作業を、習熟するまで丁寧に指導します。



草を刈った後、熊手、竹ぼうきで、刈り取った草を畦の中央にまとめていきます。(写真 右端は職員、安全確認をしている)



クルマが通る時など、利用者同士で声を掛け合い、道の端によんでいます。耳の遠い方には、職員が肩に手を置いて注意を促し、顔を見て必要なことを伝えています。



11:45 職員が作業終了の声かけをし、使った道具を車に戻します。

片付け後、水分を取ります。次に健康状態の確認、午後の仕事の伝達があり、それから、車に乗り込み施設へ戻ります。

作業のポイント



安全に効率よく作業を進める役割分担とチームワーク

草刈り機を操作する係、刈った草を熊手で集める係、竹ぼうきやブローアーを使って散らばった草を集める係、車が来たときの注意喚起する係等に仕事を分担し、お互いに手伝ったり、教えあったり気遣ったり、チームワークで作業を進めていきます。利用者は、自発的に下記の活動を行っています。

機械の燃料補給を手伝います(写真 上)。

道路の路肩で作業する場合、クルマが来れば、草刈り機を操作している人に大声で知らせます(写真 中)。

利用者間で互いの体調変化にも気配りし、職員に報告します。

休憩の呼びかけをし、仲間同士で飲み物を配っています。

安全の確保

草刈り機操作中は、草刈り機担当以外の人たちが、そばに近づかないよう利用者全員に徹底します。用があるときは、決して後ろから近づかず、操作者の視界に入るよう正面から近づき、機械を停止させてから声をかけます。耳が遠い利用者が、草刈り機操作者の近くに寄りすぎたときは、職員及び他の利用者が肩をたたくなどして注意を喚起します。

草刈り機の操作について

草刈り機を使った作業は、機械の操作を理解し、集中して安全に作業ができる人、機械の重さもあるため体力のある人等、能力・適性を考慮して役割分担をしています。草刈り機の操作は、職員が実演してみせながら、足の位置や草の生えている向きを見て刃の方向を対応させるなど、丁寧に時間をかけて指導をします(写真下)。

草刈り機の操作者は、安全のために長靴、長そで・長ズボン、手袋、フェイスガードを装備することが基本ですが、利用者がいやがる場合もありますので、丁寧に説明し理解が得られるよう指導していきます。作業に戸惑い・やりにくさを感じている時には声掛けや指示を出す等、常に配慮をします。



職員の注意点・工夫等



暑い時期なので体調管理に気を遣っています。特に、作業開始、休憩時(1時間ごとに休憩をとる)、午前の作業終了時には、しっかりと水分補給をしています。

指示を出すときは、相手の顔を見て目があつたところで、ゆっくりはっきりと伝えます。ひとつの作業に習熟するまでは時間がかかるので、何事も気長に繰り返し教えていくようにします。

職員は、作業前に機械に不具合がないかの確認をし、ガソリン等の取扱いの管理をします。作業中も常に目配りし、安全に作業ができるよう努めています。

取材協力 社会福祉法人 飛山の里福祉会
ハート飛山

取材日 : 7月 19日

宇都宮市東部の清原地区に位置する当施設は、鬼怒川の流れと飛山城址に囲まれた自然豊かなところにあります。都市近郊農業地域という地の利を生かした農作業(水稻栽培、しいたけ栽培)除草作業の他、収穫や収穫後の片付け等、地域農家から農作業を請け負うなどを積極的に展開しています。

ほうれんそう収穫作業

作業時期：10月下旬～2月（秋～冬どり）
 取組人数：収穫 利用者4名、指導員2名
 出荷調整 利用者4名、指導員1名
 所要時間：収穫 2時間30分、出荷調整 5時間
 作業量：収穫 12コンテナ（約40kg）
 使用した道具等：鎌、はさみ（園芸用）、車付きイス、洗い桶、コンテナ



有機ほうれんそう収穫作業の流れ



朝礼で、今日の班分けを行い、収穫班は車で畑まで移動します。



畑に到着後、2人1組で収穫します。防寒着を身に着けます。収穫作業開始前にほうれんそうの寒さよけの不織布を収穫する畝だけはずします。



前列の人が鎌を使い傷つけないように左手で葉を持ち上げ株元に鎌の刃を入れて根を切ります。根についた土を落としてうしろ後列の人へ渡します。



洗い桶に水をためてコンテナ1つぶんのほうれんそうを入れます。ほうれんそうを軽くゆすり土を洗いおとしたあとに古く小さい葉（下葉）、葉先が枯れたり茎が折れたりして傷んでいる葉をとり除きます。

納品先の要望により水洗し土を落しています。土が付着したまま出荷することもあります。



収穫したばかりのほうれんそう
露地栽培は土が付着しやすい。



後列の人がハサミを使い根を短く切り揃えます。枯れたり、黄色くなっている葉があれば取り除きコンテナに入れていきます。

ほうれんそうで満杯になったコンテナは職員が随時予冷库に運びます。



洗ったほうれんそうを新聞紙の上に逆さまにし水気がとれるまで干します。



乾いたほうれんそうを計量し出荷用コンテナに詰めて納品します。

今日は法人内のお弁当製造部所に納品します。

ほうれんそうの出荷はFGフィルム袋又はテープによる結束で出荷するのが一般的です。

使った道具類を洗い、片付けして作業終了です。明日の予定を確認します。

作業のポイント

収穫作業の分業とチームワーク

農業者が収穫する場合、改めて根を切り整える作業を行いませんが、今回は「根を切る」「根をハサミで切りそろえる」と作業を二つに分けることで、利用者がほうれんそうを鎌で傷つけることなく収穫を行っています。

また、収穫班と別に、出荷調整を行う班に分けることで、多くの障害者が農作業に取り組むことができます。

複数人で作業していると、仕事がたまってしまう人もいますが、自然と誰かが手伝うチームワークができています。

適性 能力に合わせて作業を担当

鎌を使う作業は細かな手首の動きができる人が行い、ハサミで根を切る作業、出荷調整する作業はゆっくり丁寧な作業をする人が行うなど、それぞれの能力を活かせるよう適性や能力に合わせて担当を割り付けます。

例えば、「根を切る」作業は、左手でほうれんそうの葉を適度な力でつかみつつ、右手で鎌を使い、やや力をこめて根を切る作業を行います。左右の手の力加減の調整が可能であること、逆手にして作業できるなどが求められます。

収穫調整作業は、ほうれんそうが傷まないよう丁寧な動きと、枯れた葉など見逃さない観察力が求められます。

身体への負担軽減

ほうれんそうの収穫は、しゃがむ姿勢が長時間続くため、膝や腰に負担がかかります。車がついた移動式の椅子を使うことで利用者の身体への負担を軽減しています。プラスチックの軽い椅子なので、畑のなかでも片手で動かすことができ作業が滞ることはありません。

情報の共有化でチームワーク強化

ほうれんそう収穫後、出荷調整を別の担当が行いますが、出荷調整が作業終了時刻までに全部終わらない事もあります。次の日の担当に作業の状況を伝えるため、紙に「日付、重さ、状況等」と記入しメモを入れ、作業を引き継ぎます。(左写真「日付1月14日、重さ3.5kg ほうれんそうを洗っていない状態」)



職員の注意点・工夫等



作業中に明らかになった課題は、職員と利用者が一緒に改善策を考えるようにしており、対策を自ら考えることで仕事への意欲を高めます。今回は、作業中にほうれんそうを干した順番がわからなくなってしまうため、何度も乾き具合を確認する必要がでてきてしまい、時間がかかってしまいました。新聞紙に時間を記入し管理し易くする対策をとることとしました。

作業を細かく分割し、チームで取り組むことで、いろいろな農作業に多くの利用者が取組むことができます。また、利用者の希望と、能力や適性を考慮し、適した担当に配置することで、利用者に「成功」「ほめられる」機会を増やしやる気を高めていきます。

出荷調整等判断を必要とする作業は、口頭だけでなく、良い葉と除くべき葉の現物を見比べするなど理解しやすい指導を行います。

取材協力 社会福祉法人パステル

つるたみ

取材日：1月10日

下都賀郡野木町にある障害者福祉施設です。平成24年より有機栽培による野菜の生産に取り組んでいます。ほうれんそうの他人参栽培生産などに力を入れています。

いちご収穫作業

作業時期 : 12月 ~ 5月

取組人数 : 収穫 利用者 5名、指導員 2名

出荷調整 利用者 5名、指導員 3名

所要時間 : 収穫 2時間 出荷調整 2時間

作業量 : 収穫約 30ケース / 日

使用した道具等 : 収穫カゴ (摘み取ったいちご用)、
手つきカゴ (枯葉摘み取り用)、
いちごのヘタとり器



いちご収穫作業の流れ



当日朝収穫するいちごの熟度が指示されます。本日は赤い部分が「8割」のいちごを収穫します。(土日は収穫しないため、金曜日はやや白めに収穫します。)



利用者は、収穫カゴを持ち収穫作業に入ります。足元のいちごを傷つけないよう留意しながら、畝間を進みます。



写真のように指の間で茎をつかみ、手首を返し摘みとります。



収穫作業後、いちごのパック詰めを行います。傷みのあるいちごなどを除き、大きさを選びながらパック詰め作業を行っています。(パック内のいちごの大きさを揃えます)



収穫したいちごが、カゴ一杯になったら、その都度保冷库に運びます。(果実の温度が高くなると傷みやすいので、収穫したら直ぐに保冷库に入れ冷やします。)



葉の陰にいちごが隠れていないか確認をしながら、収穫作業を進めていきます。



パック内にゴミなど混入していないか確認し、ラップを張り出荷用段ボール箱に詰めます。箱詰めしたら保冷库で冷やします。



集荷するトラックが来たら、保冷库からいちごを取り出し、市場やホテルに出荷します。



手の空いた時間に枯れた葉を見つけ取り除きます。収穫の他の栽培管理作業も随時行っています。

作業のポイント



いちご収穫のポイント

いちごの収穫は、色で熟度を判断し、つぶさないように摘み取ります。いちごのへた側に指を添えて（ひとさし指と中指で茎を挟みます）、手前に引きつつ軽く手首のスナップをきかせ摘み取ります。上手くいくと「パチン」と音が鳴ることがあります。強く握ってしまうと、いちごを傷つけてしまい、手のひらが赤くなります。

「いちごの汁が手につかない」「パチンと音が出る」など具体的な技術習得の目安を示すことで習得しやすくなります。



判断力を養う

収穫したいちごを傷みや病気になった果実を除きながらパックにつめていきます。選別のミスは「良いもの」と「ダメなもの」の現物を見比べてもらい「何がダメか理解」させます。

詰め方は同じ程度の大きさのいちごを並べていきますが、お客様のことを考えて、「おいしそう」と買ってもらえるよういちごの並べ方等を利用者本人が考えながら詰めていきます。判断力を習得させるため細かな指示はありません。パックに並べたあとに助言するか先輩利用者がアドバイスします。

習得まで時間がかかりますが、判断力をつけることで徐々に選別、パック詰め作業が手早くできるようになります。



判断力を養う

毎日、お客様の注文数により、やるべき仕事の量・やるべき事（今日のノルマ）を明確にして、その日の作業がその日中に達成できるよう「今日は「パック注文」「時までに終わらせよう」と職員が声に出して確認を促します。しかし、作業中は自分たちで作業の進み具合を判断できるよう、職員は作業の最終確認のみとしています。



作業を容易にする道具

傷んだり、形の良くないいちごはヘタを取り、冷凍して加工用に保存します。いちごのヘタの他に傷んだ箇所を切り取る時、刃物に集中していると手に力が入り握りつぶし易いので、扱いやすいピンセット状の「いちごのヘタとり器」を使用しています。

職員の注意点・工夫等



職員は、今日行うべきことを「何時までに」を終わらせよう」などとはっきりと伝えたり、判断材料（情報）を提供したりしますが細かな指示は極力少なくし、利用者が仕事のスピードを自分で判断する機会を作ることで判断力を育てています。

やらなければならない「プレッシャー」と「達成した充足感」を感じさせたり、自分たちの育てたいちごを利用している店舗でいちごを使った料理を食べるなどで、自分が行っている仕事の結果を理解するようにし、仕事への意欲を高めています。

「作業中の私語禁止（仕事のための会話はできる。）」「今日の作業量の確認」「報告の徹底」を行い、事務所全体で「職場」の意識付けをしています。また利用者同士は、作業の早い人・ゆっくり丁寧に作業する人等、それぞれの個性を受け入れ、チームで一つの「仕事」を完成させるという意識を持たせるため、できるだけ利用者だけで作業を行うようにしています。

取材協力：社会福祉法人 天成会
すまいるわーく桜
取材日：1月31日

社会福祉法人天成会は、平成19年に障害者自立支援事業所「すまいるわーく桜」を開所しました。施設内にある農場で、いちご（16a）、トマト、しいたけ等の栽培をしています。特にいちご栽培には積極的に取り組んでおり、生産されたいちごは地元市場の他、さいたま市内のホテルなどに出荷し、好評を得ています。

なしの枝拾い作業

作業時期 : 1月 ~ 4月
取組人数 利用者 5名、職員 1名
所要時間 : 1時間 30分
作業量 肥料袋で22袋程度
使用した道具等 遊具用そり5台、一輪車 1台
(そりを運ぶため)



なしの枝拾い作業の流れ



9:15 体調をチェックします。ラジオ体操の後、職員から、本日の作業メンバーが伝えられます。



なし園に行くメンバーは、長靴に履き替え、手袋、上着を身に着け、各自、身支度をします。なし園に運ぶ道具を職員が準備します。



道路では左一列になり、車に気をつけつつ、歩いてなし園へ向かいます。職員のみでなく、利用者同士も、互いの安全を確認します。



地面に落ちたなしの枝を拾い、そりに載せます(写真)



10:00 作業開始。農場により枝の処分方法に違いがあるため枝を拾ったら、処理する場所へ運ぶ「トラックに載せる」袋に入れる」など、今日のやり方を職員が説明します。



なしは翌年の収穫のために冬にせん定を行います。



ある程度集めたら、袋を置く場所(写真 右端)近くにそりを運び、そりから袋に枝を入れます。農園により、そりの長さより長い枝を折りながら袋に詰めることがあります。



袋を立てて、枝をしっかりと収めます。袋がほぼ満杯になったら、袋を置く場所にまとめます。拾った枝が一目でわかり、達成感がつながります(写真 右)。

11:30 片付けにはいります」と職員が声をかけます。そりを集めて一輪車に乗せ、施設に戻り、道具を片付けて作業終了です。

作業のポイント



一番作業しやすいやり方で

農業者により、枝を拾った後にトラックの荷台に載せる袋に入れてまとめておく、長い枝・短い枝を分別して袋に入れる等、枝の処理方法が異なります。

今回はこの作業をしました。はじめに職員が実際にやってみせます。利用者は、そのりを使って枝集めをする、そのりを使わずに枝を袋に入れる、そのりに載せるだけ(職員が袋に入れる)など、一番やりやすい方法で自分に出来ることをするよう指導しています。

の処理を農業者から依頼されたときは、そのりを物差しのように使い、そのりに入る枝を短い枝、そのりからはみ出す枝を長い枝というように分別しています。

作業への意欲を高める

枝を拾うという単純な作業は、利用者にとっては取組みやすいものです。職員は「そのりがいっぱいになったら、袋に入れよう」今入れている袋がいっぱいになったら終わりにしましょう」という明確な指示を出します。成果が目に見えることで、自分の出来ることをやれた、役だったという達成感が得られます。また、「おかげさまで農家の方に喜んでもらえました」、「この一列がきれいになりましたね」助かりました」などの声をかけることで、寒い時期の屋外作業であっても、作業意欲を高め、成果を出すよう配慮しています。



職員の注意点・工夫等



利用者は、手袋をはめ長靴を履いて作業をします。寒い時期なので、施設に備えてある上着を身に付けます。熱心に枝を拾っていると、天候により体が汗ばむこともあるので、それぞれに自分で判断し上着を脱いだり着たり調整するよう声をかけます。

冬は、特に風邪をひかないよう、作業後は施設にもどってすぐにうがい・手洗い・着替えをするよう職員が指示を出します。汗のかき具合により各自で判断し、着替えをするよう声をかけます。



農業者と円滑な関係性を築くためには、農業者からの要望を、職員が受けて作業を管理します。職員は、与えられた仕事に対し、利用者のペースで確実に作業が終了できるよう進捗管理をします。作業中のけがや病気についても、施設の責任で対応します。

職員は、単純作業であっても意欲を高める声かけや、作業効率をあげる手法、道具の使い方等を工夫し、依頼された作業を確実にこなせるよう支援していきます。新しい作業にも取り組める可能性があります。

取材協力：社会福祉法人 すぎの芽会
すぎの芽学園・デイセンターすぎの芽
取材日：3月12日

デイセンターすぎの芽は、平成9年に開所、平成23年12月に多機能型事業所に移行しました。当施設では、農業を含む様々な作業を通じて社会適応性を養っています。主な農作業は(なしの枝拾い、パンジーの鉢植え、畑作業等です。)

参考資料・情報

農業分野における障害者就労について（農林水産省資料）

- ・福祉分野に農作業を～支援制度などのご案内～ver2

（<http://www.maff.go.jp/j/keikaku/pdf/ver2.pdf>）〔農林水産省へリンク〕

福祉目的で農作業を行う取組等に活用できる主な支援策を紹介しています。

- ・農業分野における障害者就労マニュアル

（<http://www.maff.go.jp/j/keiei/kourei/syougai/pdf/2008.pdf>）〔農林水産省へリンク〕

農業分野における障害者の受入手法や支援手法について解説しています。

- ・農業分野における障害者就労の手引き

（http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/pr_report/files/sagyoujirei_h19.pdf）

〔農林水産省へリンク〕

農作業を行う際の障害者への配慮や指導ポイントについて解説しています。

農作業のお役立ち情報サイト

- ・農作業安全対策について（<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/nousagyouanzen.htm>）

〔栃木県 HP 経営技術課ページへリンク〕

- ・病虫害発生予察情報や最近話題になっている病虫害に関する情報

（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）〔栃木県農業環境指導センターHP〕

- ・農薬飛散による被害の発生を防ぐために・農薬適正使用について

（<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/work/nougyou/keiei-gijyutsu/1193102667149.html>）〔栃木県 HP 経営技術課ページへリンク〕

平成 26年 3月時点の情報です。上記ページの変更などによりアドレス等が変更になる場合がありますので、予め御了解ください。

発行者 栃木県農政部農政課 食育・地産地消担当
〒321-8501 宇都宮市埜田 1-1-20
TEL028 - 623 - 2288
FAX028 - 623 - 2340
e-mail : nousei@pref.tochigi.lg.jp